

# EU Indicators

## 欧州経済指標コメント：8月英国労働統計

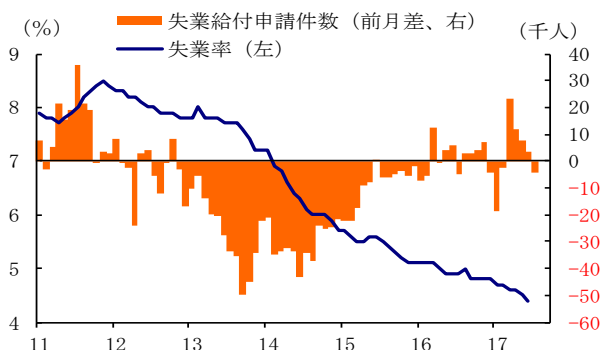
発表日：2017年8月16日(水)

～フィリップス曲線の復活も近い？～

第一生命経済研究所 経済調査部  
 主席エコノミスト 田中 理  
 03-5221-4527

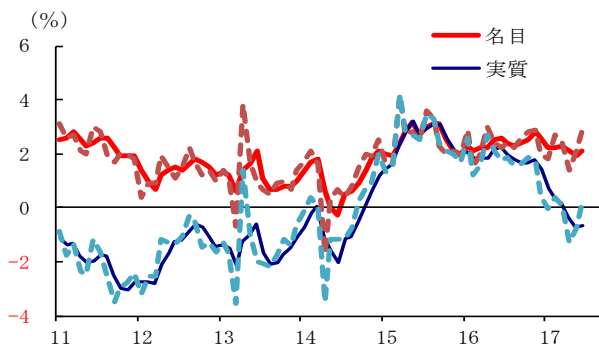
- 英国の失業率（労働力調査）は6月から遡って3ヶ月の移動平均で4.4%と、前月（4.5%）から一段と低下し、1975年以来で最も低い水準を更新した。単月では、新たに計算に加わった6月値（4.20%）が同一サンプルの3月値（4.35%）を下回った。7月の単月値が4.71%を上回ると（同一サンプルの4月値は4.62%）、来月の3ヶ月移動平均値は4.5%に上昇し、7月が4.40%を下回ると来月の移動平均値は4.3%に低下する。速報性のある7月の失業給付ベースの失業率は2.3%と4ヶ月連続で横這い推移だが、失業給付の申請件数が5ヶ月振りに前月から減少に転じ、改善が止まった訳ではない。
- 全産業の週当たり賃金（賞与を含む）は6月から遡って3ヶ月の移動平均で前年比+2.1%と前月（同+1.9%）から上昇率が僅かに再加速した。内訳は、賞与を除く賃金（同+2.0%→同+2.1%）が小幅加速するなか、前月の全体計数を押し下げた賞与（同▲0.8%→同+2.9%）が一転、押し上げに寄与。単月でみた賞与の伸びは同+17.2%と出来すぎの感が否めないが、賞与を除く賃金でも底打ち傾向。賃金上昇率が急加速する可能性は低いが、来年に入ると消費者物価の上昇率が鈍化に向かうなか、賃金の伸びがやや高まることで、実質賃金がプラスに転換する展開を予想する。ブレグジットを巡る不透明感が後退しているか否かが、先行きの景気回復の行方とBOEの政策転換を占う決め手となる。

■英国：失業率と失業給付申請件数



出所：英国統計局

■英国：週当たり賃金・賞与（全産業、前年比）



注：実線は3ヶ月移動平均値

出所：英国統計局

■英国の失業給付・平均賃金

	2016				2017							
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	
失業率（失業給付、%）	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.3	2.3	2.3	2.3	
失業給付件数（前月差、千人）	3.1	4.0	7.0	-4.1	-18.4	-2.4	23.3	11.6	7.7	3.4	-4.2	
失業率（労働力調査、%）	4.8	4.8	4.8	4.8	4.7	4.7	4.6	4.6	4.5	4.4	—	
（単月の失業率、%）	4.6	4.8	4.9	4.6	4.7	4.8	4.3	4.6	4.4	4.2	—	
就業者数（前月差、千人）	44	-2	4	47	91	43	121	108	175	126	—	
週当たり賃金（産業計、前年比、%）	2.4	2.5	2.8	2.6	2.2	2.2	2.3	2.1	1.9	2.1	—	
賃金	2.4	2.6	2.7	2.6	2.4	2.0	1.8	1.8	2.0	2.1	—	
ボーナス	0.8	1.0	6.1	4.5	1.7	2.3	5.3	4.6	-0.8	2.9	—	

注：労働力調査基準の失業率、就業者数、週当たり賃金は当月で終わる3ヶ月移動平均 出所：英国統計局

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。